

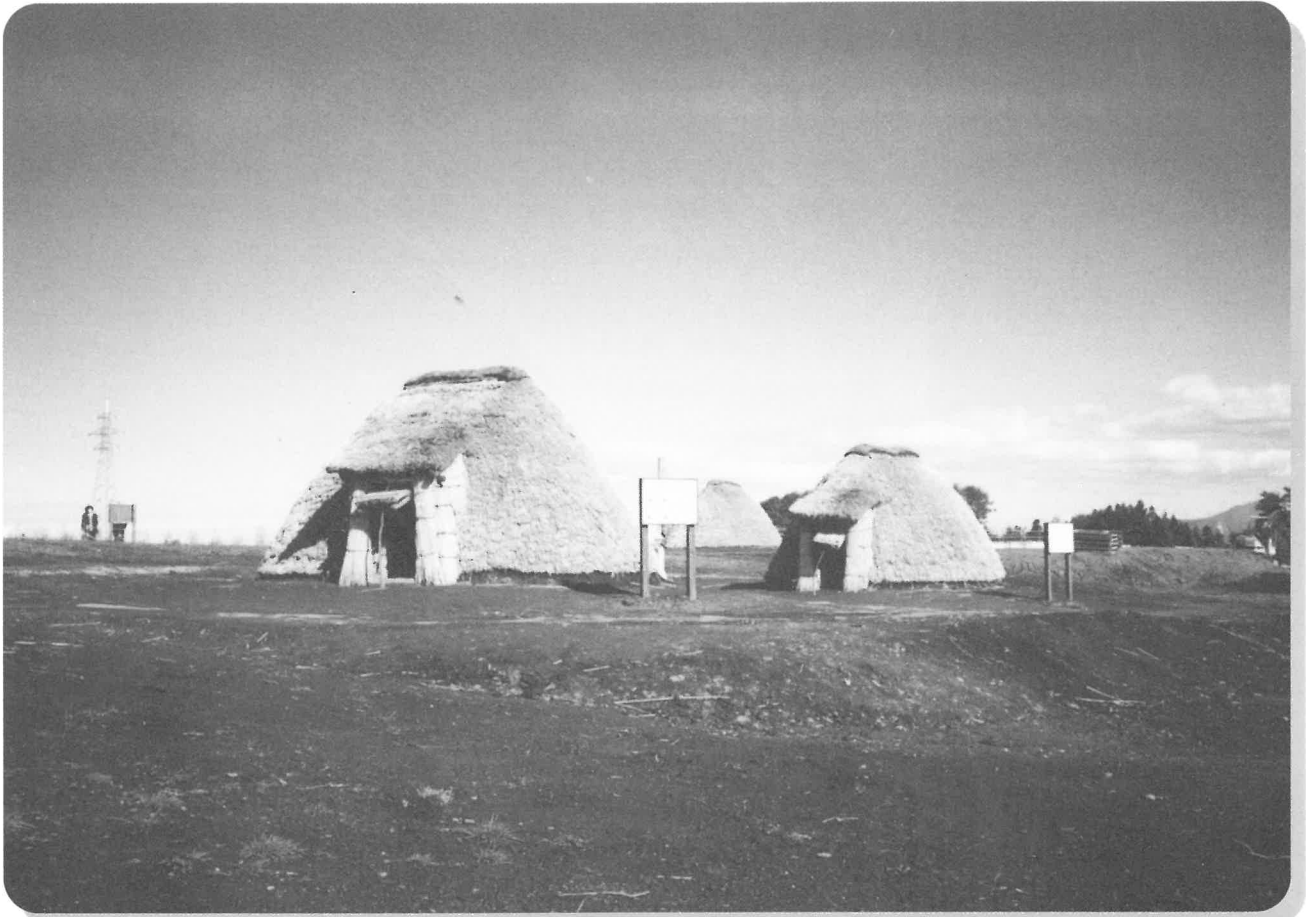
創刊号 平成8年3月

三内丸山遺跡対策室

青森県青森市新町2丁目3番1号

TEL 0177 (22) 1111 内線 5252

三内丸山通信



復元住居

三内丸山遺跡からのメッセージ

三内丸山遺跡は、青森県総合運動公園の新県営野球場建設に先立って、平成4年から発掘調査が行われました。調査の結果、縄文時代前期中頃から中期末葉（今から約5,500年～4,000年前）にかけて、約1,500年間継続して営まれた日本最大の縄文集落跡であり、その大規模な遺構、大量かつ多彩な遺物から、当時の生活、文化、自然環境等とその変遷が具体的に解明できる全国的に例のない極めて貴重な遺跡であることが明らかになりました。

遺跡の重要性にかんがみ、県は平成6年8月1日に野球場の建設工事を中止し、遺跡の保存・活用を決定しました。平成7年度からは、遺跡の出土品と特徴的な遺構を展示・公開しており、今後とも学術解明のための調査を続けるとともに、保存・活用に向けた整備を行ってまいります。

この「三内丸山通信」は、遺跡からのメッセージとして、調査の成果、整備状況、トピックス、イベントなどの情報をお伝えしてまいります。

●三内丸山 この一年

この一年多くの人々が訪れ、三内丸山遺跡を楽しんでいただいたと思います。

出来事を振り返ってみます。



8月8日 巨大木柱取り上げ

大型掘立柱建物跡のクリの木柱は、2日がかりの慎重な作業により、無事取り上げられました。昨年度取り上げた1本とともに、現在保存処理が進められています。



4月29日 一般公開始まる

巨大木柱・こどものお墓・盛土など話題になった遺構が再び掘り起こされ、迫力ある実物が間近で見学できるようになりました。

5月19日 秋篠宮妃殿下ご視察

第46回結核予防全国大会ご臨席の帰路、遺跡にお立ち寄りになり、巨大木柱や住居跡などを30分にわたりご視察されました。

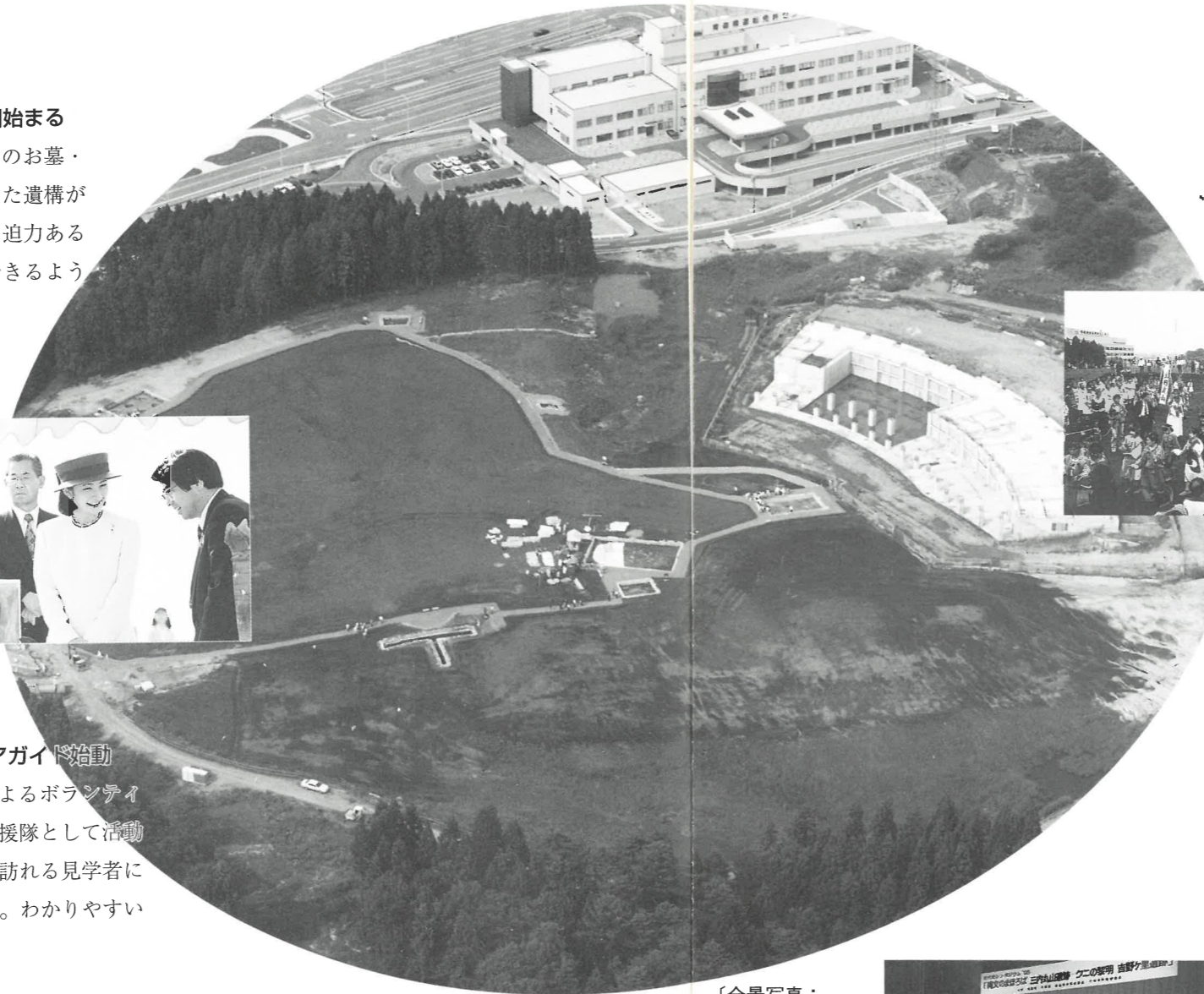


7月8日 ボランティアガイド始動

研修を終え、市民によるボランティアガイドが三内丸山応援隊として活動開始しました。遺跡を訪れる見学者に解説を毎日行いました。わかりやすいとなかなか好評です。

7月10日 試掘調査開始

国史跡指定に向けて、遺跡の内容をさらに詳しく知るために、周辺の試掘調査を開始しました。



9月28日 縄文フォーラム(県・東奥日報共催)

司会に小山修三国立民族学博物館教授を迎え、三内丸山遺跡を中心に、世界の狩猟採集文化の視点から検討しました。また、王巍中国社会科学院助教授により最新の中国新石器時代の研究成果が報告されました。

10月13日 復元建物3棟完成

集落が最も繁栄した時代の姿を一部再現しました。調査の成果にもとづき、現在は竪穴式住居5棟・高床倉庫3棟・大型竪穴住居1棟を復元しました。今後大型掘立柱建物跡が復元される予定です。



10月15日 三内丸山縄文フェスタ

7,000人が縄文体験。

土偶作り、火おこし、縄文なべ、ポシェット作りなどの体験コーナー、縄文結婚式、縄文音楽祭、縄文ファッションなどが現代風にアレンジされ、多くの人々が縄文時代を楽しみました。



10月27日 土坑墓列さらに210m以上伸びる

お墓の拡がりを調査した結果、土坑墓列がさらに東側へ伸びていることがわかりました。これまで確認した列の長さは210mにもなります。



[全景写真：
東奥日報社提供]

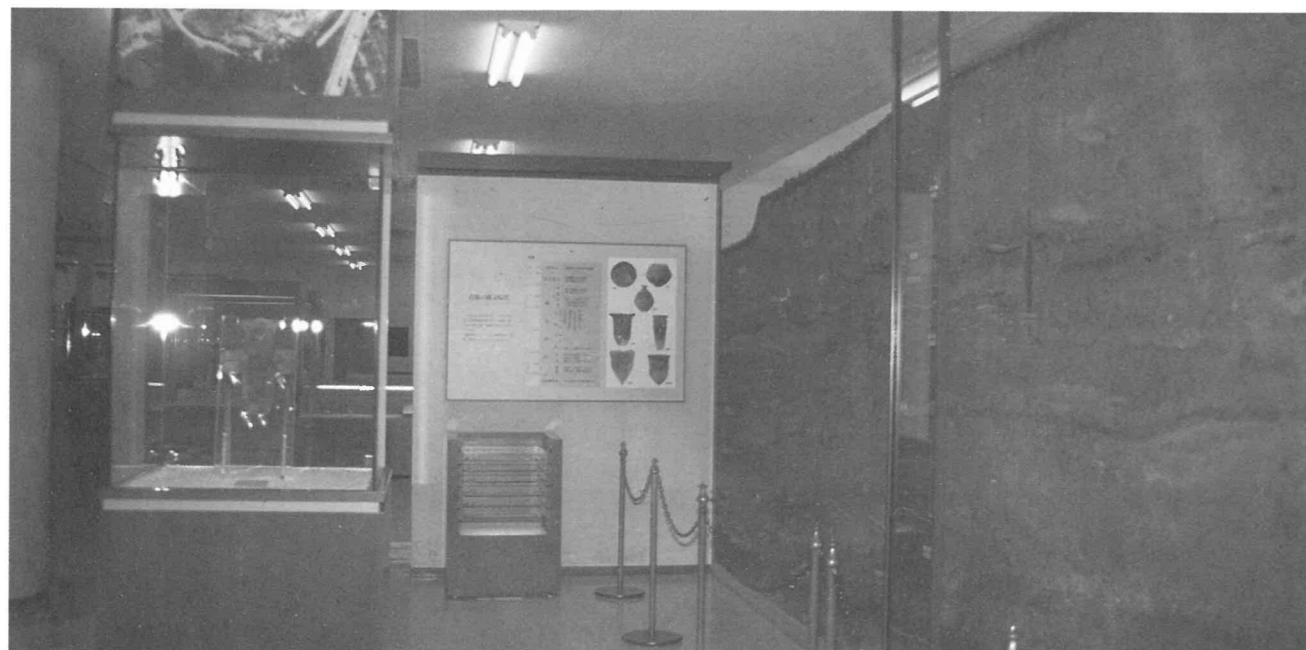


11月5日 合同シンポ開催

縄文文化の代表三内丸山遺跡と弥生文化の代表吉野ヶ里遺跡の最新の調査成果をもとに、その共通性・相違点を各研究者が討論しました。特に、高さ20mの大型掘立柱建物跡をめぐる、建物説と非建物説の白熱した議論が展開されました。

●展示室紹介

昨年8月、出土遺物を展示した三内丸山遺跡展示室がオープンしました。展示室は、約430平方メートルと広く、約600点の遺物が展示されています。展示室にはいると、大型板状土偶や盛土の土層断面のはぎ取りが見学者を迎え、中に進むと、すまい・食・うつわ・漆・道具・お墓・まつり・かざる・衣・交易などの各テーマごとに、代表的な遺物が展示され、それぞれにわかりやすい解説があります。さらに、精巧な大型模型により、発掘調査の状況が忠実に再現されています。映写室では、三内丸山遺跡の調査の様子や遺跡紹介のビデオテープが上映されています。また、土器の接合や復元などの整理作業もガラス越しに見学することができます。



展示室内部



入り口

各コーナーの展示

整理作業風景

●三内丸山遺跡 3つのキーワード

三内丸山遺跡は日本最大の縄文時代の集落跡です。今から約5,500年～4,000年前の縄文時代前期中頃から中期にかけて繁栄した、定住生活の営まれた大規模集落跡と考えられます。大勢の人々が生活し、たくさんの円筒土器や石器が作られ、遠方との交易も行われていました。発掘調査で明らかになったこの遺跡の特徴は、次の3つの言葉で表現できます。

大きい

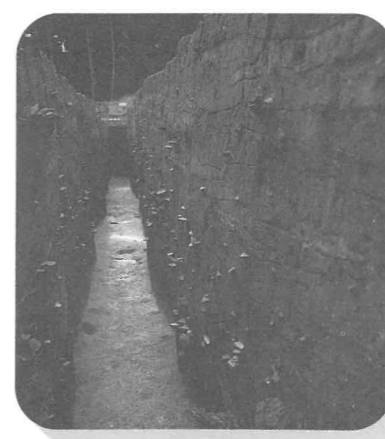
遺跡の広さは約35ヘクタールと広大です。ただ大きいだけではなく、集落のいろいろな施設がある一定の場所に作られた、計画的な集落づくりが行われていました。住居は谷の西側に、大人のお墓は東側にきちんと作られています。また縄文時代の集落が住居、お墓、高床倉庫、ゴミ捨て場などから構成されていたことも少しずつわかってきました。大型住居や大型掘立柱建物など大勢の人々の共同作業によって作られたものも発見されました。また、遺跡の周辺には、取り囲むように同時代の集落が存在することが知られ、その中の中心的な集落と考えられます。

長い

この集落は約1,500年間続いたと考えられます。当時の平均寿命は約30歳ですから、世代交代を繰り返しながらこの場所で生活していました。そして長期間定住生活を行うために、安定した食料の確保やゴミを廃棄する捨て場をつくるなど、工夫をしていました。自然に依存するだけでなく、積極的に自然に働きかけていました。この間にこの土地への愛着や習慣などの精神文化も築き上げられました。そして長い間生活できるような豊かな自然の恵みも当然あったことでしょう。前方には陸奥湾、後方には八甲田山が連なり、まさしく青い海と青い森がこの集落を支えたのです。

多い

この遺跡からはダンボール箱4万箱分の膨大な遺物が出土しています。まだ一部しか調査されていませんから、一体どれくらいのもが地下に埋蔵されているか見当もつきません。たいいてい遺跡は土器・石器などの、長い間土中にあっても変形しないものの出土が大部分ですが、三内丸山遺跡では、低地から木製品や骨角器、縄文時代の樹木や種実、動物や魚の骨、小さな昆虫や花粉、寄生虫の卵などが良好な状態で発見されました。これらを分析すると当時の気候や自然環境、縄文人の食生活の様子が具体的にわかります。最近では植物の遺伝子も残っていることが判明しました。



●施設紹介



- ① 竪穴式住居（復元建物）
- ② 北盛土覆屋
- ③ 掘立柱建物（復元建物）
- ④ 南盛土覆屋
- ⑤ 埋設土器（こどものお墓）覆屋
- ⑥ 大型竪穴式住居（復元建物）
- ⑦ 大型掘立柱建物跡
- ⑧ 展示室
- ⑨ 休憩室
- ⑩ 駐車場



ボランティアガイド

市民が三内丸山遺跡活用に一役買っています。見学者への理解をより深めてもらいたいとボランティアで遺跡のガイドをしています。



売店

三内丸山グッズがいっぱい！出土品を参考にしたお菓子、板状土偶のキーホルダー、箸置き、ループタイ、置物、絵はがき、ペンダント、バッジなどがあります。



休憩所・軽食コーナー

縄文ラーメン・そばが大好評！イノシシの肉と山菜の入ったあっさり味のラーメンとそばが人気です。三内丸山遺跡に来たら是非とも食べてみたい。

覆屋

昨年度の冬は埋め戻して見るのでできなかった遺構部分も平成7年度からは覆屋設置によって通年で見学が可能になりました。全国でも珍しいドーム型です。



●平成7年度試掘調査報告

今年度の発掘調査は、国指定に向けて集落の姿を明らかにすることを目的として、7月10日から11月2日まで、遺跡北地区の4地点（第1～4次調査区）で行いました。調査面積は合わせて3,212平方メートルです。

第1次調査では、現在公開中の大型掘立柱建物跡の西側を96mの長さにもわたって調査し、調査区の西側では縄文時代中期の住居跡群と中期後半から末葉にかけての柱穴群を確認しました。また、西端の谷の部分では縄文時代の遺物包含層が確認され、多量の遺物が出土しました。平成7年度は最上層の中期末葉の層から前期末の円筒下層d₂式の層まで調査し、来年度も調査を継続する予定です。

第2次調査は、北の谷の東側、平成4年度に縄文時代の貯蔵穴が見つかった場所の東隣で行いました。縄文時代の貯蔵穴が確認され、その広がりがありました。また平安時代の住居跡も10棟確認しています。

第3次調査区は第2次調査区の南東側に位置し、縄文時代の掘立柱建物跡が1棟と貯蔵穴と考えられる土坑が5基確認されています。

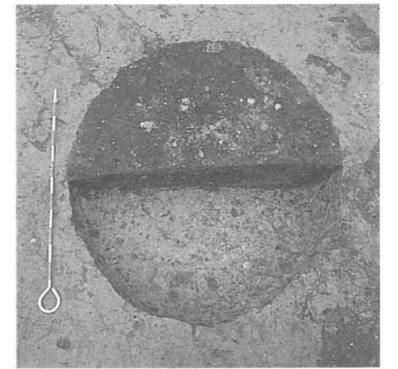
第4次調査では、野球場建設予定地の東側を調査し、平成4年度の調査で見つかった土坑墓列の延長上に位置する34基の縄文時代の土坑墓を確認しました。これらは、列をなしています。このうち第817号土坑には石鏃が10個副葬されていました。この調査により、土坑墓列は西端から210m以上東に延びることが明らかになりました。来年度以降も、三内丸山遺跡の全容を明らかにするため、調査を継続することになっています。



第1次調査・遺物出土状況



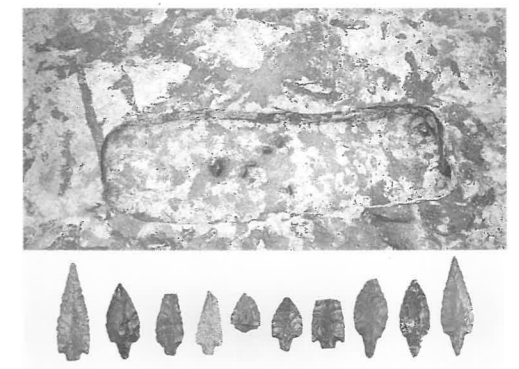
第2次調査・貯蔵穴群



第3次調査・貯蔵穴と考えられる土坑



第4次調査・土坑墓列調査状況



第817号土坑と出土した石鏃



●平成7年度三内丸山日誌

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|--|
| 4月1日 | 市営バス三内丸山遺跡線新設 | 10月3日 | 遠山敦子文化庁長官視察 |
| 4月10日 | 覆土掘り起こし作業始まる | 10月13日 | 復元竪穴住居3棟完成 |
| 4月25日 | 三内丸山遺跡解説員名採用 | 10月15日 | 三内丸山縄文フェスタ開催 |
| 4月27日 | 縄文映画製作委員会、復元模型寄贈 | 10月23日 | 土坑墓20基2列でほぼ直線状に発見 |
| 4月29日 | 一般公開始まる | 10月26日 | 平成6年度からの見学者30万人突破 |
| 5月19日 | 秋篠宮妃殿下ご視察 | 10月27日 | 土坑墓さらに6基発見、墓列210メートル |
| 5月20日 | 平成7年度見学者3万人突破 | 10月30日 | 土坑墓から石鏃10点が出土 |
| 6月8日 | 売店オープン | 11月2日 | 平成7年度試掘調査終了 |
| 7月4日 | 与謝野馨文部大臣視察 | 11月5日 | 青森県三内丸山遺跡と佐賀県吉野ヶ里遺跡
合同シンポジウム開催(東京有楽町マリオン) |
| 7月8日 | ボランティアガイド開始 | 11月19日 | 元国立民族学博物館長(現顧問)梅棹忠夫
氏視察 |
| 7月10日 | 範囲確認の試掘調査開始 | 11月28日 | 第2回遺跡ゾーン基本計画検討委員会開催 |
| 7月28日 | 集落範囲が西側に拡大していることが判明 | 11月30日 | ボランティアガイド今季活動終了 |
| 7月30日 | 平成7年度見学者10万人突破 | 12月28日 | 平成7年公開終了 見学者は26万565人 |
| 8月1日 | 新展示室オープン | 1月5日 | 三内丸山遺跡新年公開スタート |
| 8月8日 | 巨大木柱取り上げ(保存処理へ) | 1月11日 | ボランティアガイド募集 |
| 8月22日 | 第1回遺跡ゾーン基本計画検討委員会 | 2月15日 | 第3回遺跡ゾーン基本計画検討委員会開催 |
| 8月29日 | 東奥日報社、遺跡パネル寄贈 | 2月23日 | 覆屋公開開始 |
| 9月28日 | 縄文フォーラム'95開催(青森市文化会館) | | |

●来年度のお知らせ

来年度、三内丸山遺跡をもっと楽しんでいただけるように、次のようなことを予定しています。

・発掘調査

集落全体像を解明するために行います。

・縄文まほろば博

三内丸山遺跡を中心とした新しい縄文世界を知ってもらうため、7月から11月まで、全国4ヶ所(東京・大阪・仙台・青森)で、巡回展を開催します。

・シンポジウム

三内丸山遺跡の縄文人の生活をさまざまな視点から検証します。

◎この他に建物復元や、体験学習館の建設を予定しています。

寄附金—三内丸山遺跡の保存・活用の 一助にと、寄附がありました。

寄附者名(受付順)	金額(円)
日本労働組合連合会青森県連合会	2,879,161
社団法人 青森県管工事業協会	1,000,000
青森県建築設計事業協同組合	500,000
三内丸山遺跡を21世紀に残す会	119,624,701
コマツ青松会	1,002,268
青森建設協同組合	1,000,000

寄附金は、三内丸山遺跡の保存・活用のために有効に役立ててまいります。ご厚志ありがとうございました。